北陸中日新聞　平成 26 年 6 月 13 日朝刊に

“あさのちゃん”が登場しました。

（第3種郵便物認可）

医療ほくりく

体の具合が悪くなれば誰もが利用する病院。患者は地元で評判の診療科や最新の医療設備、腕のいい医師がいるかどうか、といった情報を頼りに病院を選ぶ。一方、各病院は患者が親しみやすい雰囲気づくりに工夫をこらす。石川、富山両県の身近な病院を記者が訪ね、話題を随時紹介する。

浅ノ川総合病院（金沢市）

ゆるキャラ 元気を配る

二〇一〇年、病院開設六十周年を記念し、「あさのちゃん」は誕生した。当初はラッピングバスや病院の配布物の上での活動だったが、一二年に着ぐるみが完成。「ゆるキャラ」としての活動もスタートした。ゆるキャラがいる病院は北陸地方でも珍しい。

一九五一年開業、全十九の診療科目がある病院に対し、金沢市民は「昔からある大きい病院」というイメージを持っている。「昔からある」は言い換えれば「古い病院」。そこで、親しみやすい新たなイメージを持ってもらうのが狙いだった。

あさのちゃんは看護師という設定だが、「元気のある病院、元気のでる病院」をモットーとする同病院の宣伝広報部長として、地域の住民に元気をおすそ分けすることを目指している。

これまで、病院と地域住民との交流イベント「ふれあい感謝祭」、病院での音楽鑑賞会や病院外のイベントに積極的に参加。また、ボールペンやばんそうこうなどの病院グッズにも登場し、知名度は着実にアップ。病院への親しみやすさという新たなイメージ獲得に貢献している。

（清水俊介）

病院を訪れた子どもたちとふれ合う「あさのちゃん」＝浅ノ川総合病院提供

メモ

金沢市小坂町中83
076(252)2101(代)
大西寛明院長
内科、外科、精神科など19科
外来診療の受け付けは月―土曜の午前８時30分～午前11時（日曜・祝日、第２土曜は休診）